

県と宇都宮市が総合防災訓練

栃建協宇都宮支部が道路啓開

栃測協、宇管工が情報収集、給水

県と宇都宮市は31日、鬼怒川左岸の道場宿緑地で2025年度総合防災訓練を開催した。地震を想定したライフライン応急復旧などの訓練が展開され、県建設業協会宇都宮支部(野澤充広支部長)は国土交通省や自衛隊などとともに道路啓開を実施。県測量設計業協会(戸部康彦会長)は情報収集、市管工事業協同組合(中村勝理理事長)は応急給水訓練に参加した。

復旧などの訓練が行われた。

発生直後に福田富一知事設置され、各防災関係機関を統監、佐藤栄一市長を本部長とする災害対策本部が護・搬送活動、ライフライ

道路啓開は栃建協宇都宮支部が宇都宮国道事務所、自衛隊、警察と連携。道路を塞ぐ丸太を会員が自衛隊のバケットローダーに運び、ダンプトラックで速やかに丸太を搬出。救助や救援、ライフライン復旧に不可欠な道路機能を回復させた。



佐藤市長



福田知事

訓練は大規模地震によって家屋倒壊や土砂崩れなどの被害が発生。道路や橋梁などの公共施設、通信、電気、ガス、水道のライフラインに甚大な被害が発生しているという想定。



自衛隊や国道事務所と道路啓開にあたる栃建協宇都宮支部



宇管工による応急給水訓練

栃測協はドローンで情報を収集し、映像をモニターに映し出した。宇管工は2台の給水車で市上下水道局とともに市民に応急給水を行った。ライフライン復旧ではガスや通信サービス、緊急送電の訓練も行われた。

防災に関する啓発展示コーナーでは県電気工業事業組合(戸塚守理理事長)が地震の時に火災を防ぐ感震ブレーカーを展示。県防災士会(稲葉茂理理事長)はクイズや液状化ミニチュア実験で防災に関する心構えを来場者に伝えた。

レンタルのニッケンはバッテリー式照明器具や不整地用キャタピラー台車を展示。アクティオは土嚢袋に代わる防水商品を紹介した。

終了後、佐藤市長は「実践的な訓練ができた大変意義深く、心強く感じている。皆さんとの強固な連携のもと、地域防災力を高め、災害対策の充実強化に取り組んでいく」と講評。

福田知事は「いつどこで発生するか分からない自然災害に適切に対応するには日ごろの備えが大切。県民一丸となって防災減災対策の強化に取り組む」と総括した。